

2016年(平成28年)3月25日発行
人権プラザ赤堀(TEL059-351-7609 FAX059-351-7608)
<http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu73141.html>

第49回 三重県人権・同和教育研究大会

テーマ：差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する「教育」を確立しよう
主催：第49回三重県人権・同和教育研究大会三泗大会実行委員会 / 公益社団法人三重県人権教育研究協議会



代表スピーチ



10月17日 地元報告での演奏

「四日市市部落差別をはじめとするあらゆる差別を無くすことを目指す条例」(抜粋)

(目的) 第1条 この条例は、日本国憲法及びあらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約その他の人権に関する条約の理念にのっとり、すべての市民に基本的人権を保障し、部落差別をはじめ、女性差別、障害者差別、外国人差別など、あらゆる差別を無くすための市及び市民の責務並びに市の施策について必要な基本事項を定めることにより、すべての市民が人として尊重され、明るく住みよい人権尊重都市四日市市の実現に寄与することを目的とする。
(市民の責務) 第3条 市民は、前条の規定により市が実施する施策に協力するとともに、基本的人権を相互に尊重し、自らも差別及び差別を助長する行為をしてはならない。



人権プラザ赤堀運営委員会
委員長
辻山 忍

今年度、感動を与えてくれた出来事を三つあげると、一つは、ラグビーワールドカップでの日本代表の活躍です。過去二度の優勝を誇る南アフリカ代表を下し、三勝をあげるといふ快挙を成し遂げました。

二つ目は、四日市市人権・同和教育研究大会での「このみ会」(乳幼児をもつ保護者の会)の報告です。地域や校園との関わりの中で親子が成長し「つながることの大切さ」に気付いたと大勢の参加者の前で報告できました。

三つ目は、四日市で行われた三重県人権・同和教育研究大会での地元報告です。同大会では十五年ぶりに赤堀の太鼓が演奏を行い、引き続き「子どもたちの明るい未来のため、そして差別をなくすため、活動を続けていく」との力強いスピーチがあり、深く感動しました。

地域活動においては、「人とのつながり」、「子どもたちの明るい未来」ということを大切に考え、ラグビーのようにひとりひとりがみんなのために行動し、みんなで差別をなくす取り組みを推進していきます。

次代を担う子どもたちのために

成人講座・研究大会

第四十九回 三重県人権・同和教育研究大会地元報告に参加して

伝統文化普及 太鼓「ゆう」 鈴木 有紀

「あけぼの」この曲には、特別な思いがあります。十五年前の映像で始まった地元報告の太鼓演奏。演奏後の会場からの拍手は、私たちの十五年間の歩み・太鼓ゆうとジュニア太鼓クラブ、そして、人権のまちづくりを共にがんばってきたなかまたちへの賛辞のように感じられ、私は、やりきったという思いと言葉にはできないぐらいの大きな感動で、震えが止まりませんでした。この大会に臨むにあたって、新旧のメンバーで集まり、様々な思いを出し合いました。厳しくも温かい意見交流の場があったからこそ、この十五年間が「差別に立ち向かっていく」「みんながつながっていく」という思いでつながったように思います。その後は、新旧のメンバーもジュニア太鼓クラブの子どもたちも、最高のパフォーマンスを披露するために必死で練習しました。徐々に、そのつながりが強くなっていくことを感じるようになりました。「あけぼの」という曲は、言葉で説明しなくても、その響きだけで十五年前の決意やなかまとの結束を今に蘇らせ、私たちに新たな絆をもたらしてくれました。「あけぼの」とともに、三人教大会に参加することを得たつながりは、次世代の子どもたちに引き継いでいかなければなりません。「太鼓の響きっていいよね」という思いに乗せて、もっともっとみんながつながっていけるように、これからも活動を続けていきたいと思っています。



第三十七回 四日市人権・同和教育研究大会で「伝えたい つながることの大切さ」の提案報告をして

このみ会(乳幼児をもつ保護者の会)

中村めぐみ

伝えたかった思い「つながることの大切さ」。一番実感できたのは、私自身だったのかもしれない。まちの人、お世話になった先生、親の会の先輩お母さん。私が発表すると聞きつけて、たくさんの人たちが応援に駆けつけてくれました。そんな人たちの前で発表できて、自分に自信を持つことができました。「すごくよかったよ」と声をかしてもらって、このまちの温かさを改めて感じました。私も、このまちのためにできることをやっていきたいという思いも強くなりました。

「このみ会」の活動は、回を重ねるにつれ、以前より地域の若い保護者が気軽に集まれる場になりつつあると感じています。このつながりを、もっともっと太くしていくことが私の役割だと思います。

四回研で提案して、今度は人の話も聞いてみたいと思えるようになりました。そんな思いで参加した「三人教大会」。「部落差別」に向き合い「自分のまちをよくしていきたい」という強い思いを報告する提案者の姿に、自分の考えの甘さを気づかされました。

私にたくさんのお気づきを与えてくれる人たちがいるから、子どもたちのため、このまちのために行動していきたいと思っています。



地元大会テーマ「信州発! そのあとに続く 全ての世代のために」が問うもの

四日市市立常磐小学校 佐々木 裕

全国人権・同和教育研究大会が開催された長野県における同和教育は、一九五〇年にある小学校で起きた差別事件が契機となってスタートしました。

「差別によって決して命を奪われてはならない、絶対に差別に負けてはならない。切実な願いから始まった同和教育です。」地元実行委員会がこの大会に届けたメッセージは続きます。「先生、私もいつか差別を受けるの?」「この差別をなくすことができるのか?」「子どもたちの問いに私たちはこたえ切れていないのでは?」「法や制度がなくなるといっていい程度で、消え消えになっていく実践とはいったい何だったのでしょうか」「本大会が(県の人権・同和教育の)再スタートです」地元大会テーマに込められた思いでした。

これらの言葉や話、その姿が私の頭の中を、心の中を何度もぐるぐると回っていました。大会テーマは、自身の生き方に鋭く、深く、問いかけてきました。自分は、人権・同和教育にしっかりと向き合っているのか? 「やるぞ!」全国教大会に参加するたびに、同じ思いをもつ全国の人々との出会いは元気をもらいます。長野大会は、私にとって人権・同和教育の再出発点になりました。



「人権尊重都市宣言」1992年12月22日

すべての人々の基本的な人権が尊重される自由で平等な社会の実現は、人類共通の願いであります。しかし、私たちの身のまわりには、今なお因習や偏見などによるさまざまな人権問題が存在しています。人権が侵害されることは、いかなる理由であっても許されることではありません。

人が人として尊ばれる明るく住みよい社会を築くため、私たちは、ここに四日市市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

「日本国憲法第14条」

すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。



近年行われている県民意識調査の結果をふまえ、部落問題を解決していくために必要な取り組みについて語っていただきました。「残念ながら部落差別の現状は、同対審答申が出された五十年前と何ら変わらず。今なお差別に苦しむ人々がいる。差別の現状を正しく認識した上で解決する取り組みを考えていかねばならない。差別は『される側の問題ではなく、する側の問題である』ことを共通認識しておきたい」そして、さまざまな人と出会い、自分の生き方を見直していく中で、教育の重要性に気づき、「本当の意味での出会い学習を企画してほしい。自分を語ることや反差別の仲間とつながることの大切さを理解し、自分の生き方を振り返る学習が必要だ」と語る。参加者からも、「実体験に基づく話で分かりやすく、教育の役割、教師としてのいや人間としてのあり方を学ばせてもらいました」など、多くの前向きな意見や感想をいただきました。

第一回成人講座 六月二十二日

【部落差別の解決をめざして】

近年の意識調査から
みえてくること

反差別・人権研究所
調査・研究員 原田 朋記 さん

第二回成人講座 十二月十一日

【ありのままのわたしを 生きる】ために

京都府立高校人権教育研究会事務局
セクシュアルマイノリティ教職員
ネットワーク副代表 土肥いつき さん



トランスジェンダーについて、自身の経験・セクシュアルマイノリティ(性的少数者)の現状と課題について語っていただきました。トランスジェンダーとの出会い、人間としての性のとらえ方、考え方など、私たちが普段の生活の中ではあまり考えないことや気づかないことなどを熱く語っていただきました。今社会でも話題になっている「LGBTI※」についてもよく分かる説明でした。その中で「自然は多様性を好む。しかし、社会はそれを嫌う」という言葉が印象に残りました。参加者からも、「この言葉をもつて帰りたい」「多様性について考えてみたい」とか、「新しい知識を得た」「改めて性について考えるよい機会になった」など、高い評価を得ていました。また、人権について様々な視点から話していただき、多くの学びがありました。

※レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー・トランスセクシュアル、インターセックスの頭文字

第三回成人講座 二月二十二日

【煩惱具足と信知して】

誓覚寺 住職
常磐地区の人権擁護委員

栗栖 隆興 さん



まず最初に「赤堀村」の成り立ちや歴史、言い伝え等を話していただいた。和讃に紹介されている『煩惱具足と信知して』の話があり、煩惱とは一〇八あると言われているが、本当はそうではなく、後付けされたこと、自分自身の心の中にある醜い心が三つあり、これらの心を消すために阿弥陀さんの救いの世界に入っていくこと。そして「天上天下唯我独尊」(唯一他にかわりようのないかけがえない存在である)の境地に至る。この中の仏説阿弥陀経の中の「池中蓮華、大如車輪、青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光、微妙香潔」が元になって「世界に一つだけの花」の歌詞が誕生しスマップの大ヒットにつながったことを知った。

最後に、これまで自分が様々な研修を受け、いろいろなことを知り、自分のうちにある差別性に気付いてきたこと、「人権擁護委員」「僧侶」として生きていくためにも現実をしつかり受け止めていく決意を語っていただいた。



赤堀人権のまちづくり推進委員会

全体行事



4/19 春の視察研修(醍醐寺三宝院)



7/21 まちづくりコンサート (a tempoさん)



1/31 もちつき



分譲地の草刈り



9/27 秋の視察研修(五箇山合掌集落)

伝統文化普及 太鼓「ゆう」



隔週水曜日に練習しています。人文協「すくらむ」ジュニア太鼓クラブの指導もしています。赤堀ふれあいまつり・常磐まつりでの演奏のほか、今年度は三人教大会・郷土が誇る芸能大会にも出演しました。

人権啓発 コラソン「赤心」



人権講座や研修を企画したり、視察研修の際、車中で人権研修を実施したりしています。また、今年度は参加型地区懇談会に取り組み、他地区へも出かけました。

多文化共生「Lea Lei (レア・レイ)」



外国と日本との文化の交流を図るためにいろいろな国の人を招いています。今年度は、ポリビア、中国の方々を招き、それぞれの国の料理や文化について学びました。

いきがい農園



分譲地を借りて季節の野菜を作っています。住民同士の交流の場となり、作物の収穫の喜びを分かち合っています。「もちつき」などで収穫した野菜を使っています。

人権のまちづくり

赤堀人権のまちづくり推進委員会では、地域生活課題を赤堀南二区及び周辺地域住民が一体となり、住民主導で解決することによって、地域社会における人権・同和問題に関する相互理解を促進させることを目的として活動しています。委員会には9つの加盟団体と3つの部会（「記録・広報」、「調査・研究」、「研修」）があり、来年度もう1団体加盟します。それぞれの活動を通して、皆で楽しく交流を進めています。

環境美化「すぎな」



「自分たちのまちは自分たちできれいに」と、毎月第3日曜日に、公園・道路のゴミ拾い、スポーツ広場の清掃をして環境美化の啓発活動をしています。今年度は、鹿化川の清掃とごきぶり団子づくりも行いました。

食文化「彩（いろどり）」



食の大切さを見直し、健康づくりをしています。旬の野菜を用い、栄養学、食の文化や歴史にもふれ学習しています。食に関する講座の企画も行っています。

パソコン普及「パソパル」



パソコンを通して仲間づくりをしています。土曜日に勉強会を開催、プラザ主催のパソコン年賀状教室や人文協「すくらむ」パソコンクラブの指導もしています。

地域福祉「ひだまりの会」



毎月第3木曜日に集まり、介護予防の勉強、体操などをして、いつまでも元気に暮らせるよう健康づくりをしています。遠足に出かけたり、避暑会やクリスマス会も行っています。


体力づくり「楽しく」



「楽しく健康づくり！」を目指し、毎月第3月曜日にグラウンドゴルフに取り組み、交流しています。ソフトボール大会を開催して、多くの人と交流することができました。

私たちと一緒に活動しませんか？

赤堀人権のまちづくり推進委員会では
新規会員さん募集中です！



興味のある方は人権プラザ赤堀までお問い合わせください。



第8回 赤堀 ふれあい まつり

10月25日(日) ~笑顔でつなげるまちづくり~

今年も多くのスタッフと出演者の協力により、まつりが盛大に開催され、たくさんの人たちで賑わいました。



ステージ発表

ゆるキャラ表彰式



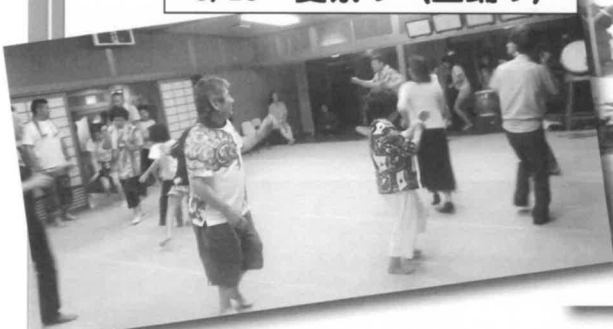
最優秀作品



あそびコーナー

自治会活動

8/29 夏祭り (盆踊り)



7/23 育成会 (夏季行事)



12/17 育成会 (クリスマス会)



常磐地区子ども人権文化育成協議会（人文協）は、『地域で育てる地域の子どもたち』をモットーに、児童集会所を拠点にした活動「すくらむ」「キッズスクール」「児童集会所開館支援」を行っています。「すくらむ」は7つのクラブがあり、指導は地域の方たちが担っています。前期6月～10月、後期11月～2月と2期制で行っています。また、年2回「すくらむフェスティバル」を開催して、各クラブの活動の発表や交流をしています。

すくらむフェスティバル

毎年、7月と3月はすくらむの活動を「すくらむフェスティバル」で発表・展示しています。

7/18 すくらむフェスティバル



3/5 すくらむフェスティバル



★ものづくりクラブ

エコに関心を持ってもらえるよう、廃材を使って工作をしました。作品を作り上げる喜びを味わっています。



★人形劇クラブ「フルーツパフェ」

題材選びから台本づくり、人形作りまで、みんな自分たちの手作りです。人形劇の楽しさを味わっています。



★パソコンクラブ入門

基本的な操作を覚えて、メッセージカードを作りました。「常磐まつり」の会場に展示し、見ていただきました。



★パソコンクラブ初級

キーボードを両手で打つ練習をし、名刺やカレンダーを作りました。「常磐まつり」の会場に展示し、見ていただきました。

★ジュニア太鼓クラブ入門

基礎練習から始まり、「まつり」「どんどん囃子」を演奏できるようになりました。



★ジュニア太鼓クラブ初級

「三人教大会」「常磐まつり」「天白ふれあいまつり」「郷土が誇る芸能大会」に出演し、「干将」「あけぼの」を演奏しました。



★ドリームクラブ



特別企画の職業体験では、「オレンジ」のパティシエ、小林さんにお話を聞き、ケーキづくり体験をしました。



「進路ガイダンス」では中学生が進路を考える参考になるように高校の先生や先輩にお話をしてもらいました。

キッズ スクール

キッズスクールは、子どもの居場所づくりと、そこでの活動を通して幅広い交流や相互理解を図ることにより、仲間としてお互いを尊重しあう心を育むことを目的に行っている活動です。

知的好奇心を持つような内容や、新しいスポーツに挑戦する企画など、子どもたちが様々な活動に意欲や興味・関心を持つことができる内容を計画、実施しています。



6/13 親子でうたってつくってあそぼう!



7/4 まわしてあそぼう! ~遠心力~



7/25 ペン立てを作ろう



8/8 人権に関するポスターを描こう



9/12 絵本で遊ぼう・絵本で楽しもう



10/10 タイのお菓子を
作って食べよう



11/7 親子で 一足早いクリスマス



12/12 ピンポン大会



1/16 木の实を使って楽しく工作しよう



2/13 あられ炒り体験と昔の遊び

このみ会

乳幼児をもつ保護者が集まって、子育ての相談や悩みなどを話し合っています。

今年度の四日市人権・同和教育研究大会では、「人とのつながりの大切さ」を他の保護者にも伝えながら会のなかまがつながり、子どもたちのための活動をしていきたいと提案・報告がなされました。



児童集会所自由開館



児童集会所は、子どもたちが遊びと学びを通して、人権文化の拠点として、また人を尊重するという人権の土台をつちかう仲間づくりのための場として開館しています。子どもたちの出会いとふれあいの場として、たくさん子どもたちが自由に遊んだり、読書や勉強をしたりしています。また、絵本、図鑑、児童図書など本の貸し出しも行っています。常磐人文協の事業として、開館支援のスタッフさんに開館時の見守りをいただいています。

だれでも、自由にあそべます!

(未就学児は保護者同伴で)

月曜日～土曜日

(日・祝休み)

午後1時～5時

各種講座・就業支援事業



手芸教室



パソコン教室



パソコン年賀状教室



料理教室



人権プラザ就業支援事業
フォークリフト
運転技能講習



子ども料理教室

定期講座一覧

◆手芸教室

第2・4木曜日 午後1時30分～

◆パソコン教室

随時

◆パソコン年賀状教室

年末に3回程度

◆料理教室

隔月 土曜日 午後1時30分～

◆子ども料理教室

隔月 土曜日 午前10時～



この他にも、みなさんの希望などにより開催可能な講座もありますので、ご意見をお寄せください。

人権プラザ赤堀では 相談事業を行っています。

福祉相談：毎月第2木曜日 午前9時～11時

健康相談：毎月 上旬 午後2時～3時

教育相談：毎週 木曜日 午後5時30分～8時

その他、人権、住宅、経営、就労、生活一般にかかる相談を随時受け付けています。

どうぞご利用ください。

電話 351-7609

Fax 351-7608

プラザと児童集会所の間を舗装整備しました。

児童集会所にくる子どもの安全に配慮し、一般の車の駐車スペースはありません。



プラザ北側の駐車場をご利用ください。



人権プラザ赤堀や児童集会所では、図書の貸し出しを行っています。

人権関係図書をはじめ、様々な分野の本が充実していますので、ぜひご利用ください。

編集委員

◎委員長 麻生ひろみ
◎副委員長 飯田一巳
古河 義明 松野 高彦
濱門 綾美 ○古河 和義
中西美弥子 野田 直希
◎辻山 忍 辻山 強
鈴木 茂見 高橋 賢
小林 昌史 佐々木 裕
太田 伸吾 黒田梨音奈
飯田 一巳



編集後記

第八回を数える「赤堀ふれあいまつり」をはじめ「元気あふれる赤堀人権のまちづくり」の活動をたくさんの人たちに発信・紹介すること」は、本年度も活発に行うことができました。

四日市人権・同和教育研究会での「このみ会」の報告と三重県人権・同和教育研究会での「太鼓ゆうとジュニア太鼓クラブ」の演奏は、どちらも参加者の胸を打つ、すばらしい発信だったと思います。

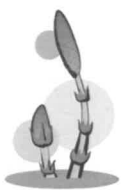
さらに、次代を担う子どもたちのために、部落差別の解消やLGBTIの問題解決につながる研修を深めることができました。

今後も「差別のない明るいまちづくり」のため、皆さんとともに力強く歩んでいきたいと思いません。

最後になりましたが、広報「あかほり」第四十一号を発行するにあたり、ご協力を賜りました皆様深く感謝し、厚くお礼申し上げます。

〔表紙の題字〕

故山城幸治郎 揮毫



ホームページもご覧ください。 <http://www5.cty.yokkaichi.mie.jp/menu73141.html>